

<b>マンゼブ水和剤</b> <b>グリーンペンコゼブ水和剤</b>	<b>取扱メーカー：</b> クミカ <sup>*</sup> 、ホクサン  <b>原体メーカー：</b> セレクサアグリ
<b>成分：</b> マンゼブ〔有機硫黄 PRTR・1種〕……………80.0% <b>その他 PRTR 該当成分：</b> ヘキサメチレンテトラミン〔PRTR・1種〕……………0～1.8%	<b>性状：</b> 淡黄緑色水和性粉末45μm以下 <b>毒性：</b> 普通物 <b>消防法：</b> ——

### 【品目特性】……………

- 予防効果が高く、付着性、耐雨性に優れるため安定した効果が期待できる。
- 多作用点阻害剤であるため、耐性菌発生のおそれが少ない。
- ばれいしょ、たまねぎ、てんさい、だいずの主要病害に優れた防除効果がある。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

### 【使用上のポイント】……………

#### 〈ばれいしょ〉

- 浸透移行性はほとんどないので、作物体全体に均一に散布する。
- 初期防除に努め、散布時期が手遅れにならないようにする。疫病初発が見られるころ（植付後60日目ごろ）に第1回散布を行うとよい。
- 降雨前の散布が最もよいが、時期を失した時は小雨時か晴天を利用して散布する。
- ばれいしょに対して希釈倍数100倍で散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の地上液剤散布装置を使用する。

#### 〈てんさい〉

- 褐斑病の発病初期から4回、定期的に散布。他剤の耐性菌対策としてローテーションの中に組み込む。

- 大型散布機で使用する場合は、各散布機種の散布基準に従って実施する。
- てんさいに対して希釈倍数125倍で散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の地上液剤散布装置を使用する。

### 【薬効・薬害等の注意】……………

- 石灰硫黄合剤、ボルドー液との混用はさける。
- ボルドー液との7日以内の近接散布は薬害を生じるおそれがあるのでさける。
- 極端な高温多湿条件下では、軟弱幼苗に薬害を生じるおそれがあるので注意する。
- 適用作物の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

### 【安全対策上の注意】……………

- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。
- 藻類に影響を及ぼすおそれがあるので、使用時は注意。
- 散布器具・容器の洗浄水及び空容器は適切に処理する。



【適用と使用法】 .....

作物名	適用病害名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用 方法	マンゼブを含む農 薬の総使用回数	
ばれいしょ	疫病	400～600 倍	100～300 ℓ	7 日前まで	10 回以内	散布	10 回以内 (無人ヘリ散布 は3回以内)	
	夏疫病 疫病	100 倍	25 ℓ					
てんさい	褐斑病	400～600 倍	100～300 ℓ	21 日前まで	5 回以内		5 回以内	
		125 倍	25 ℓ					
たまねぎ	べと病 黒斑病 灰色かび病	400～600 倍	100～300 ℓ	3 日前まで	3 回以内		3 回以内	
だいず	べと病	400 倍	100～200 ℓ	45 日前まで				
あずき	さび病				30 日前まで		7 回以内	7 回以内
すいか	炭疽病 つる枯病	400～600 倍	100～300 ℓ	7 日前まで	7 回以内		7 回以内	
	褐色腐敗病	600 倍						5 回以内
メロン	つる枯病 べと病	400～600 倍		前日まで	3 回以内		3 回以内	
きゅうり	炭疽病 褐斑病 黒星病	600 倍						
	べと病	600～800 倍		30 日前まで				14 日前まで
キャベツ	400～600 倍	30 日前まで						
ねぎ	べと病 黒斑病 さび病			600 倍				30 日前まで
	はくさい	べと病 黒斑病 白斑病			6 回以内		6 回以内	
アスパラガス (露地栽培)	斑点病 茎枯病	500 倍		収穫終了後 但し、秋期まで				2 回以内
かぼちゃ	べと病 疫病	600 倍		21 日前まで				